河陽新聞

熊本市南部地区市民の会
発行責任者　　村田幸博

防犯協会の新会長さんを迎え、婦人会長等を交え座談交流会を行いました。

暮らしてみたい町には、住民自治が大切！

防犯協新会長に６町内の牛嶋一寶さんが選ばれました。

毎日、朝夕の子供の通学を見守られる交通指導員の風景

この４月から校区防犯協会は、永年リードされて来た宮本清喜会長から、６町内の牛嶋一寶さんへ（写真左の方）、副会長に12町内の紫垣憲一さん（写真右の方）へとバトンが渡され、新たな川尻校区の防犯活動が歩みはじめました。

川尻校区では「自治会はお父さん、婦人会は今まで地域を築き守られて来た大切なおじいちゃんやおばあちゃん」、そして、良いものを良い形で次の世代へ受け渡す。目指すは「暮らしてみたい町！」川尻校区づくりを合言葉に、30年前から町づくりが進められて来ました。

暮らしてみたい町には色々なテーマが掲げられます、医療・教育・福祉環境問題や自然・歴史・文化まで考えられます。

しかし、もっとも求められるのは治安や防犯問題で、安全で安心な地域に加え、不安のない社会環境を求め地道な活動が続けられています。

そこで、新しく防犯協会長になられた牛嶋一寶さんを中心に交通安全協会・警察少年ボランティア関係者、対談者に植村米子婦人会長（右写真）を交え、７月８日ズイヨウ会議室に30名ほど募り座談会を開きました。

牛嶋新会長は自身の名前「一寶（宝）」を黒板に書きながら、防犯活動への思いを語られました。

「一隅を照らす者これすなわち国の宝なり」ということわざがあります。

地域の中で人のために一生懸命に頑張る人は国の宝ということです。

昔話で人々を苦しめる鬼や竜など怪物が出ると、必ず勇者が現れて怪物を退治しました。

現代では車や犯罪者が人々の命や財産を奪っています。この怪物と戦っている勇者が「防犯協会」などの人々です。

川尻校区防犯協会は、各町内から推薦された方で構成され総勢41名の組織です。　活動拠点は、川尻交番内で「開懐世利・町衆番所」というノレンがかけてあるところです。

写真はパトロール前の打合せの様子です。活動は毎週昼夜２回のパトロールを行っています。

昼間は小学校下校時に青色回転灯をつけた通称「青パト」車５台が防犯を呼び掛けながら校区内を隅々までパトロールし、夜間は警察ＯＢの方々を中心にパトロールが行われています。

また植村婦人会長から、次のような話しがありました。「数年前、南部市民の会では『女性が安心して暮らせる町』をテーマに２年間取り組まれ多くの人が認識を新たにされたと思います。社会的弱者と呼ばれる子供やお年寄りや女性を地域で見守り支援する仕組みづくりも重要と思っています。

近年、子供の虐待のニュースが話題になっています。虐待から子供を守るには早期発見、早期対策が一番大事と言われています。」短縮ダイヤルで相談窓口につながります。

電話番号「１８９」（いちはやく）です。

警察少年ボランティアの幹事、玉真勇一さんから、「県内各地に約千人の会員数、熊本南警察署管内に85名、川尻校区には前熊本南会長の増永良毅さんをはじめ５名のメンバーが活動しています。」と、披露され、新聞掲載用に資料提供もありました。

◎毎日　子供たちを見守られる続　征雄さん、交通安全協会の内容をお聞かせ下さい。

●交通安全協会員は総勢９名、会長は１町内の椎葉勇雄さんで、熊本市で定められている「交通安全の日」１日・10日・20日の月３回、子供たちの登校時間に合わせ朝７時半から８時半までの１時間、通学の主要な所や危険な横断歩道などで、交通事故にあわぬよう見守っています。

また、小学校正門前では５町内の増柴会員が、ズイヨウ近くの危険な交差点では５町内の中川会員と私が毎日朝夕の通学時に声かけをしています。

現場に立って感じることは、信号や交通ルールを守ってほしい事です。子供たちから大きな声で「おはようございます！」の挨拶を受けると励みにもなり、朝から元気をもらった気分になります。

防犯協会の会議風景

川尻小学校前玄関の交通指導風景

◎牛嶋防犯協会長に尋ねたいことがあります。

小学校前の通りは朝の９時まで一方通行規制が定めてありますが、時間に遅れそうな子供を乗せたマイカーが違反を犯して通るのですよ、どのように対処したらいいものでしょうか？

同じ校区ですので対応に悩んでいます。

●牛嶋防犯協会長

運転者のマナーの問題ですね。交通事故が起きてからでは遅いので、川尻交番に違反者の指導と取り締まりを相談して下さい。一番いい方法で解決してくれるはずです。

◎河原良吉さん民生委員の立場ではどうですか。

●河原良吉会長

川尻校区の民生児童委員は町内担当が19名と主任児童委員２名です。防犯や治安面では乳幼児から高齢者まで、多くの人との対話や見守りを通じて校区の安全安心の確立に地道に取り組んでいます。特に一人暮らしの高齢者が孤立しないように注意しています。

地域の連携が最も大切なことと思います。

防犯協会からのお願い！　皆さんの協力をお願いします。

「検挙に勝る防犯なし」と言われています。

防犯カメラの映像は、犯人検挙の証拠になり効果抜群です。

県内では防犯カメラ付き自販機が効果を上げています。高額な防犯カメラの諸費用は全て自販機会社が負担します。

自販機１台を置けるスペースを提供して下さい。

日日新聞

防犯カメラ付き自販機 普及

地域の安全 お任せ

無料システム　県警ＯＢら考案　情報保護で課題も

▲同協会の活動が熊日新聞で大きく紹介されました。

編集後記

川尻校区で生まれ育ち年金をもらう歳を迎え、ふと過去を振り返り現在と比較して見ると色々な出来事や変化を感じる事が出来ます。

大きな時代の波で考えれば、東京オリンピックと川尻電車廃止が重なり、人も風景も自然環境も変わったように思います。

動植物など自然を取り巻くテーマで振り返ると、あんなにいたモエビやテナガエビはなぜ消えたのだろう。そう言えば、ホタルもドジョウも見る事が出来なくなりました。

毎日、前を流れる無田川を眺めています。そしてこの夏、あんなにいたシオカラトンボやオニヤンマが１匹も飛んでない事に気付きました。

右の写真は、７町内の益本武士君が熊日新聞の記者さんから取材されている風景です。今年は久々に若者２名を研修に出し、７月18日、その報告会を行いました。

現在の川尻校区を熊本県内の他の地域と比べてみると、当地は勢いも輝きも感じとる事が出来ます。それは、後継者と呼ばれる若者が活躍しているからです。

子育て中の方は参考に眺めて下さい！

下記の資料は、熊本県警「平成27年版・肥後っ子のシグナル」より

川尻の子供たちを、守ろう！ 伸ばそう！ 育てよう！

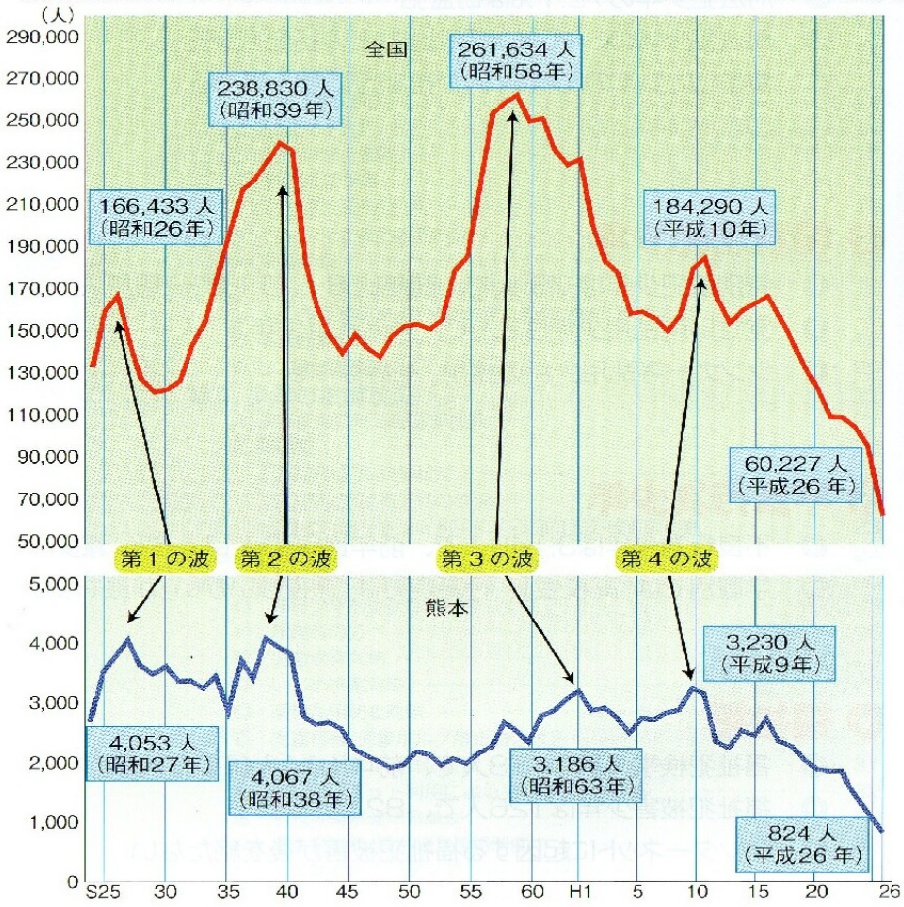
定期的に繰り広げられている青少年を見守り隊の風景です。

第2 全国、都道府県との比較

1. 全国との比較

（1）刑法犯少年の年別推移

- 近年の刑法犯少年は、全国、県内とも減少傾向にあります。
- 県内の平成26年中の刑法犯少年は824人で、戦後第4の波を形成した平成9年の3,230人に比べ、2,406人（74.5%）減少しています。



（注）昭和41年以降は、交通関係の業務上過失致死傷を除く。

5. 不良行為少年

- 不良行為少年は、3,146人で、前年の3,684人に比べて538人（14.6%）減少しています。
- 学職別では、高校生が884人で最も多く全体の28.1%を占め、行為別では、深夜はいかいが1,561人で最も多く全体の49.6%を占めています。

学職・年齢別 / 行為別	総数（人）	小学生以下	中学生	高校生	その他の学生	有職少年	無職少年	11歳以下	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
総数（人）	3,146	47	601	884	123	788	703	39	38	159	263	472	837	849	374	115
深夜はいかい	1,561	2	203	517	31	362	426	2	8	33	107	240	461	502	158	30
喫煙	1,107	0	206	256	66	344	235	0	2	46	91	171	275	275	179	86
飲酒	108	0	19	32	15	31	12	0	0	1	13	16	16	31	20	11
金品持ち出し	105	30	58	16	0	0	1	24	17	36	10	6	9	1	2	0
粗暴行為	58	11	31	6	2	3	5	10	6	11	9	9	5	2	3	3
怠学	57	0	51	6	0	0	0	0	3	17	16	17	1	1	0	0
暴走行為	44	0	0	20	3	11	10	0	0	0	0	0	26	14	4	0
不健全娯楽	29	0	2	12	2	9	4	0	0	1	1	5	6	11	1	2
不良交友	22	3	8	2	1	6	2	3	1	3	3	3	3	3	3	0
家出	21	1	12	5	1	0	2	0	1	3	7	3	4	2	1	0
不健全性的行為	16	0	1	9	1	2	3	0	0	0	1	1	5	5	3	1
無断外泊	12	0	5	3	1	0	3	0	0	3	2	1	4	2	0	0
性的いたずら	3	0	3	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0
金品不正要求	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
刃物等所持	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
薬物乱用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

小学生以下　　その他の学生

戦後の少年非行は、その時代の社会情勢を背景として4つの大きな波を形成しながら推移し、今日に至っています。

昭和26年をピークとする第1の波（戦後の混乱期）

敗戦の社会的混乱や経済的困窮から立ち直りを見せ始めた時期で、食べるため、生きるための年長少年による盗みが多発した時期です。
県内は、昭和27年にピークを形成しています。

昭和39年をピークとする第2の波（経済の高度成長期）

戦後のベビーブームに生まれた子供たちが思春期を迎え、急激な経済成長による都市化の進展、価値観の変化によるモラルの低下、享楽的風潮などを背景に、番長と呼ばれるリーダーのもとで社会に適応できない少年等がグループを構成し、グループによる凶悪犯、粗暴犯が多発した時期です。
県内は、昭和38年に最多4,067人のピークを形成しています。

昭和58年をピークとする第3の波（経済の安定成長期）

経済的により一層豊かになるとともに、核家族化、価値観の多様化、享楽的風潮などが進み、校内暴力、低年齢層の少年による遊び感覚の初発型非行が多発し、第1·第2の波を上回る形で非行総数が推移した時期です。
県内は、昭和63年にピークを形成しています。

平成10年をピークとする第4の波（社会構造の変換期）

バブル経済の崩壊後、社会全体の規範意識や地域の連帯意識が低下して、少年の凶悪事件が深刻化し、薬物乱用や女性の性非行も高水準で推移した時期です。
県内は、平成9年にピークを形成しています。

現在

少子化が進み、非行総数は減少傾向にあります。しかし、万引きなどの初発型非行が高水準で推移するとともに、インターネット利用による犯罪被害も多発しています。
県内は、平成15年以降、減少傾向で推移しています。

「マンビキ」も「チャリカリ」も立派な窃盗罪です！

川尻校区内で一番多い青少年犯罪は、川尻駅前で繰り広げられる自転車泥棒です。
他人の自転車（チャリ）を借りて乗りまわす「チャリカリ」！ぐらいの軽い気持ちで行っているのでしょう。　万引き（マンビキ）も同じで、ついつい私欲にかられたり、友達同士でおもしろ半分で行っている場合もあるそうです。
しかし、「マンビキ」も「チャリカリ」も立派な犯罪です。川尻校区では防犯協会や警察ボランティアの目に加え、防犯カメラの目で眺めていることを知ってて下さい。

最近、子供誘拐や子供幼児を狙った変質者の話題がニュースで流れています。
川尻校区内において、今まで子供誘拐の記憶はありませんが変質者の出没は現在でもあっています。場所的には城南中学校周辺、特にプール横の通り、とか、９町内（元三町）川尻バイパス下のガード周辺、中高校生の通学路や人通りの少なくなる所のようです。
校区内に溜りり場も複数ヶ所あり、シンナーやドラッグにも監視の目を光らせています。

川尻駅前駐輪場で自転車の施錠を点検する警察少年ボランティア員の活動風景